

「行ってきます」と「行きます」

校長 荻野 秀和

朝、子どもを送り出すときに使う言葉「行ってきます」。どの家でも毎日繰り返されていると思います。この「行ってきます」とよく似た言葉に「行きます」があります。よく似た言葉ですが、意味が違います、私は「行ってきます」は「行ってまたきます」という意味が含まれているように思います。つまり「行って来ます」は「これから家を出ますが、また無事に帰って来ます」という意味なのではないのでしょうか。今から約80年前、日本はアメリカを中心とする諸国と戦争をしました。劣勢になった日本軍は神風特別攻撃隊（特攻隊）を編成し、飛行機による敵の軍艦への体当たり攻撃を始めました。この攻撃で約4000名の若者が亡くなりました。私の息子と同年代の若者が、飛行機に片道分の燃料を積んで飛び立ちました。そのとき飛行場を出発する隊員は「行ってきます」とは言わず、「行きます」または「出撃します」と言ったといわれています。二度と戻らない覚悟の表れです。

また、「行ってらっしゃい」も「行って無事に帰ってらっしゃい」を短くしたように思えます。私も新潟市で働いている息子に「行ってらっしゃい」と声をかけます。新潟のアパートから、2週か3週に1度、実家に帰ってくる息子ですが、また新潟に戻る時には「行ってらっしゃい」と声をかけます。さらに「無事に帰ってくるんだよ」と心の中で声をかけています。戦争中にはない、現代の平和を実感しています。

先日のニュースですが、プールで小学校4年生が溺死するという事故が発生したことを報道していました。我々教員の最高にして最低限の責任は、お預かりしたお子さんを無事に家庭に帰すことです。先述のプール事故のようなことがあってはなりません。そのために我々は細心の注意を払いながら、様々な活動を行っています。成長を願いながらも、お子さんを無事に帰すという最高にして最低限の責任を果たして参ります。